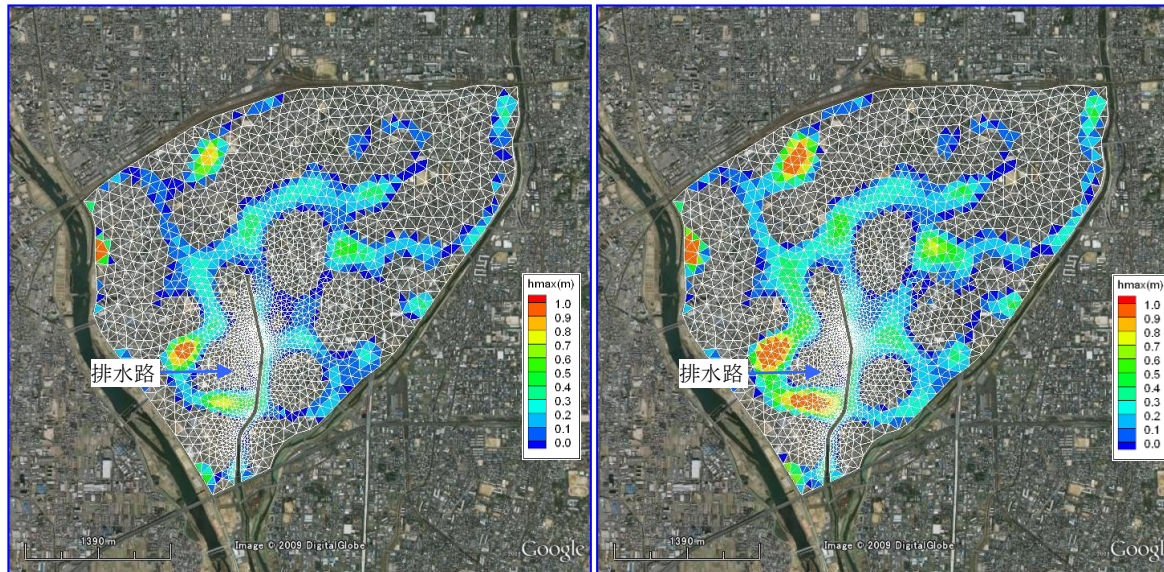


非構造格子を用いた氾濫解析

【解析例】 対象領域全域に降水量を与え、排水路より流出させた計算結果



降雨開始から 1 時間後

降雨開始から 2 時間後

■ 特徴

- 非構造格子により、地形、盛土、建物などの構造物を詳細に表現することが可能
- 非定常計算が可能
- 1次元河道一体型の計算も可能

■ その他

【解析に必要なデータ】

地形平面図、地盤高、降水量、流量
(1次元河道一体型はさらに、河道の横断形状、堤防高、下流端水位が必要)

■ 備考